

「大阪女学院短期大学紀要」執筆要領

I. 編集方針

1. 投稿者は大阪女学院短期大学専任教員および特任講師並びに非常勤講師、専任事務職員および嘱託職員、または紀要編集委員会が特に委嘱した者とする。
2. 本紀要に掲載される原稿の種類は次のとおりとする。
 - a 論文（学術的価値が高く独創性のあるもの。または編集委員会が委嘱したテーマ論文および書評論文を含む）
 - b 研究ノート（研究途上とみなされるもので、原著論文の域には達しないが公表に値するもの）
 - c 実践報告（教育実践に基づく報告、研究理論や方法論の実践的応用事例の紹介等）
 - d 書評（専任教員の著書に関して編集委員会が委嘱したもの）
 - e その他編集委員会が必要と認めた記事
3. 本紀要に発表する論文、研究ノートは、未発表のものに限る。また、本紀要に掲載された論文等は無断で他の雑誌等に転載することを禁ずる。
4. 原稿の掲載は、編集委員会の依頼した審査者による査読を経て、採否を決定する。必要な時は外部者に査読を依頼する。
5. 事務局担当者受け付けの日付けを原稿の受理年月日とする。
6. 執筆者には抜き刷り20部を贈呈する。それ以上の部数が必要な場合は有料とする。その場合は採用決定時に必要部数を事務担当者に申し込む。

II. 執筆上の注意

1. 使用言語は原則として日本語または英語とする。
2. 投稿原稿の最大字数は、日本語は20,000字、英語は8,000語以内とする。
3. 論文、研究ノートおよび実践報告には日本語および英語の抄録をつける。抄録の長さは、日本語は300字、英語は150words 以内とする。
4. 論文、研究ノートおよび実践報告には5項目以内のキーワードを日本語および英語でつける。
5. 原稿は、A 4版の用紙に40字×40行でプリントする。
6. 英語論文の場合はA 4版の用紙に12ポイントの文字を用いてダブルスペースでプリントする。原稿は左揃えとし、行末のハイフネーションは用いない。
7. 投稿原稿はコピー2部を添付し、合計3部を提出する。掲載決定後、原則として、電子データによる提出を求める。
8. 日本語で書かれた原稿の第1頁には以下の記載をする。
投稿原稿の種類、標題、著者名、英語標題、著者名のローマ字表記（ヘボン式）、日本語抄録、日本語によるキーワード、英語抄録、英語によるキーワード（固有名詞以外は小文字で表記）。本文の後には、注、引用文献等の順に記載する。

9. 英語で書かれた原稿の第1頁には以下の記載をする。
 投稿原稿の種類、標題、著者名、標題の日本語訳、著者名の日本語表記、英文抄録、英語によるキーワード（固有名詞以外は小文字で表記）。日本語抄録、日本語によるキーワード。
10. 図版および表は別紙に用意し、それぞれにタイトルと番号（図1、図2、…表1、表2）を付記し、原稿にその挿入箇所を指定する。図等の出来上がりサイズの希望があれば、指定することができる。図、表等は原稿の枚数制限に換算する。
11. 原則として現代かなづかい、常用漢字を用いる。
12. 原則として数字はアラビア数字を用いる。
13. 略称、略語は、最初に出てくる箇所で正式名称をカッコを付けて付記する。
 例：International Federation for Information and Document (FID)
14. 外国人名や地名は、日本語として慣用化しているもの以外は、原則として現綴りで記載する。
15. 章、節などの見出し区分はポイント・システムを用いる。
 例：第1章 → 1.
 第1章、第2節 → 1.2
 第1章、第2節、第3項 → 1.2.3
16. 注には通し番号をつけ、本文中の該当箇所の右肩に (1)、(2) のごとく示し、論文末尾に一括して記入する。
17. 本文中の書名、誌名は二重かぎカッコ『 』でつつみ、雑誌論文名、記事名は“ ”の中に入れる。欧文書名及び誌名はアンダーラインを引く（イタリックで記載される）。
18. 本文中の引用文は「 」の中に入れる。長い引用文の場合は改行し、本文より2字下げて記載する。
19. 原稿執筆の形式は原則としてAPA (American Psychological Association) ハンドブックに準拠することが望ましい。ただし一貫性を保つのであれば必ずしもこの原則に従わなくともよい。
20. 引用文献は論文の最後に、著者名のアルファベット順に一括して記載する。基本的に以下の事項が必要とされる。
 図書：著（編）者名、西暦出版年、『書名』、(版次)、出版地、出版社。
 論文：著者名、西暦出版年、“論文名”、『雑誌名』、巻号数、頁数。
 例：笠原嘉 (1984) 『アパシー・シンドローム』東京 岩波書店。
 Toffler, A. (1980) . *The Third Wave*. New York: Morrow.
 田尾本昭 (1995) “民間企業の研究活動に関する調査報告”『情報管理』28, 2, 99-114.
 Rider, S. M. (1987) . Music of the World's Culture. *Osaka Jogakuin Kiyō*, 18, 1-6.
21. 本文中に出典を表示する場合には、注の形をとらず、該当箇所にかっこをつけ、引用文献目録に記載されている文献の著者の姓および出版年、該当頁を明記する。
 例：「大幅な組織改革を行った企業が38.6%である」(田尾本 1995：103)

大阪女学院大学・短期大学
 研究活動委員会

執筆 者 紹 介

William D.Cline	本学准教授
肴 倉 宏	本学専任講師
Deryn Verity	本学教授
山 田 一 美	本学専任講師

(アルファベット順)

大 阪 女 学 院 短 期 大 学 紀 要 第 38 号

発行年月日	2009年3月1日
編集者名	関根 秀和
発行者名	大阪女学院短期大学 540-0004 大阪市中央区玉造2-26-54 電話 06-6761-9371・FAX 06-6761-9373
印刷・製本	友野印刷株式会社 大阪営業所 534-0024 大阪市都島区東野田町2-8-14 電話 06-6353-6977・FAX 06-6353-6181
I S S N	0387-7744

